第52回中日理論言語学研究会2021.6.6

已然事態における未然形式の意味機能
― 日中対照を通じて―

東京大学　楊凱栄

本発表は已然事態を表す日中両言語表現の相違について論じたものである。本発表では以下のことを明らかにしようとするものである。

- 1. 中国語では、過去の事態を表す際、“是”構文や形容詞述語文では已然マーカー“了”を必要としないが、動詞述語文では動作の完了や状態変化を述べる場合は原則的に已然マーカーが必要である。こうした現象をどうのように説明すればよいのか。
- 2. 動詞を述語とする文においても、文の表現機能や叙述方法の変更により、已然マーカーが使えなくなることがある。なぜそうなのか。
- 3. 日本語では過去の事態を表す時は過去時を表すマーカーが必要であるだけでなく、文の表現機能を変える場合であってもそのマーカーが必要である。
- 4. しかし、日本語では現場で発生した出来事に対し、ル形を用いて話し手の主観的態度を表すことがある。
- 「なんで＋動詞（現在）＋の」、「なにするの」、「なに言うの」
- 5. これらの構文はなぜ「ル」形を用いられるのか、その意味機能は何なのか。

1. 過去の事態叙述における日中の違い

- 中国語にはアスペクト（aspect）があり、テンス（tense）がないと言われている。この構文的特徴は以下の例文から確認できる。

  - (1) 他以前是大学老师。（是構文）
  - (2) 昨天的聚会很有意思。（形容詞述語文）
  - (3) 我们昨天去了一趟迪士尼乐园。（動詞述語文）
  - (4) 我们昨天去迪士尼乐园了。（動詞述語文）
  - (5) ?我们昨天去迪士尼乐园。（言いきりにならない）

1. 過去の事態の叙述における日中の違い

(1) （是構文）、(2) （形容詞述語文）と(3)、(4) （動詞述語文）は異なる。

(1)と(2)の述語はそれぞれ“是”と形容詞から成り、過去を示すのは“以前”、“昨天”という時間名詞だけである。

(3)、(4)の述語は一般的な動詞から成り、それぞれ動詞接尾辞“了$_1$”と文末助詞“了$_2$”がついている。このような已然マーカーがなければ文は成立しない。

(5)は已然マーカーがついていないため、言い切りの文としては不自然である。

- これまでの研究や教科書において、以上のような“了”に関する現象についての記述は見られるものの、なぜそうであるのか必ずしもその説明が十分でなかったため、日本人学習者にはしばしば以下のような誤用が見られる。
  - ①　中国語の“了”を日本語の「タ」と同一視し、過去の事態を表す場合はすべて“了”を付け加える。
  - (6)*他以前是大学老师了。
  - 　　彼は以前大学教師だった。
  - (7)*昨天的天气很热了。
  - 　　昨日の気温は暑かった。

- 日本語はアスペクトとテンスを有する言語であり、「タ」は完了だけでなく、過去時も表す(寺村1984:79)。このため日本語では過去の事態を表す場合には「タ」が必須である。
  - (8) 彼は以前大学の教師だった。
  - (9) 昨日のパーティーはとてもおもしろかった。
  - (10) 我々は昨日ディズニランドへ(一回)行った。
  - (11) 我々は昨日ディズニランドへ行った。
- (12) ?我々は昨日ディズニランドへ行く。

- ②　中国語には過去を示すマーカーがないため、動詞が述語である文においても“了”を使用しない。

- (13)?我们昨天去迪士尼乐园。　　(5) の再掲
- 　　*我々は昨日ディズニランドに行く。

(6)、(7)、(13)における中国語の誤用についてはいずれも中国語の時制に対する理解不足から生まれたものであると考えられる。

- これまで必ずしも納得のいく説明が示されていないように思われる。
- 中国語の“了”の文法的意味とは
- “了$_1$”は完了を、“了$_2$"は変化もしくは新状況の発生を表し、過去の時制とは関係がない (朱德熙1982）。

- (6)*他以前是大学老师了。
- 　　彼は以前大学教師だった。

- (7)*昨天的天气很热了。
- 　　昨日の気温は暑かった。

- （6）と（7）は過去のことについて述べているものの、過去の動作でもなければ、状態の変化でもない。過去の属性や状態（人の身分と気候）などを述べているだけであり、“了”の削除が必要。

- (13)?我们昨天去迪士尼乐园。　　(5) の再掲
- *我々は昨日ディズニランドに行く。

- (13)が成立しないのは、動詞述語が動作の完了もしくは変化を表す場合には已然マーカーが必要であるにもかかわらず、それを使っていないからである。

- 時制から見れば、これらの表現はいずれも過去の事態であるが、已然マーカーを用いる必要性は動詞を述語とする文と形容詞や“是”を述語とする文で異なる。

- 動詞述語文を用いて過去の事態に言及する場合、動作が完了しているか、事態が変化済みであるかのどちらかである。
- “了1”前者の意味、“了２”は後者の意味。

- “是”構文と形容詞述語文は過去の事態であっても、動作の完了とかかわらないため（形容詞や“是”はそもそも動作を表せない）、事態の変化を表す場合を除き、已然マーカーは不要であり、それを付加すると非文。

2.　表現機能と已然マーカー
2.1　焦点の変化と“了”の関係

- 動詞述語文を用いて已然の事態を述べる際、已然マーカーが必要であるが、動作主や動作の時間、場所、方法などを取り立てて述べる時には已然マーカーの使用ができず、“是……的”構文を用いる。

- (14) a. 是<u>谁</u>写的?　　［動作主］

- b. 他是<u>昨天</u>到的。［時間］

- c. 是在<u>上海</u>买的。［場所］

- d. 是<u>骑车</u>来的。　［方法］

“是……的”構文を用いることによって、文の表現機能は事件文から、説明文（事件を説明する）へと変化。このような表現機能の変化に伴い、已然マーカーの役割が消失するのである。

焦点は出来事の完了もしくは変化（発生済み）から出来事の動作主、時間、場所、方法に移る。

この点において、日本語と大きく異なる。

- (15) a. 誰が書いたの?
- b. 彼は昨日到着したのだ。
- c. 上海で買ったのだ。
- d. 自転車で来たのだ。

- 日本語では過去の時制を有するため、それを表示しなければならない。つまり、日本語では焦点が変わっても動詞の部分に已然マーカー「タ」を残す必要がある。

同様に事件文から説明文に

- (16)a他昨天给我打电话了。　　（事件報告）
- ?b他昨天给我打电话。

- (17)a 他昨天为什么给我打电话？　　（説明文）
- ?b他昨天为什么给我打电话了？　（変化ならOK）

以下の現象においても焦点の変化に起因し、已然マーカーが消失したものであると考えられる。

- (18) a. 你到了吗?　（着いたか？）　事件報告
- b. 到了。　（着いた）　事件報告
- *c. 到。　（着く）
- d. 刚到。　（着いたばかりだ）　説明文
- *e. 刚到了。

- 参照：什么时候到的？/　?什么时候到了？

aに対する答えとしてbとdは自然な表現であるが、cとeは成立しない。理由として

- bは動作の完了もしくは発生済みであることを伝えるため、“了”が必要。
- cは“了”がないため、不自然である。
- dのように副詞“刚”が加わると、出来事が発生済みであることを報告する文から出来事の発生を前提に、発生の時間を説明することを目的とする文に変化したため、“了”を必要としなくなる。
- eが成立しないのは文のタイプが変わったにもかかわらず、依然として“了”を残しているため。

同様の現象は、副詞“才”にも見られる。しかし、同じ副詞の“就”には見られない。

- (19) a. 他昨晩11点才睡。
- （彼は昨日11時にやっと寝た。）
- ?b. 他昨晩11点才睡了。

- (20) ?a. 他昨晩11点就睡。
- b. 他昨晩11点就睡了。
- （彼は昨日11時になるとすぐに寝た。）

- “才”の焦点と“了”の焦点との衝突による。“就”と“了”とは衝突しない。

2.2　叙述方法の変更と“了”の関係

“又…又…”構文

- (21) a. 昨天晚上他女朋友哭了。　（已然の動詞述語文）
- 昨日の夜彼のガールフレンドが泣いた。
- ??b. 昨天晚上他女朋友哭。　（已然の動詞述語文）
- c. 昨天晚上他女朋友又哭了。　（已然の動詞述語文）
- 昨日の夜彼のガールフレンドがまた泣いた。
- d. 昨天晚上他女朋友又哭又闹的
- 昨日の夜彼のガールフレンドが泣いたり騒いだりしていた。
- e 昨天晚上他女朋友又哭又闹了。

“一边…一边…”

- (22) a昨天晚上孩子一边吃饭，一边看电视。
- 昨晚子供は食事をしながら，テレビを見ていた。

- ?b昨天晚上孩子一边吃饭，一边看电视了。

- 表現機能が事件の報告から、動作の様態描写に変化したため、已然マーカーも必要でなくなるのである。bは文脈（変化の意味）により言える場合もある。

3．ル形を用いて、已然事態を表す日本語の表現
3．1 先行研究

- 寺村(1984)、ポリー（1993）、工藤（1995、2013）、山岡（2000）、尾上(2001)、日本語記述文法研究会編（2007）などがある。

「発話行為の現場で起こる出来事に対する，話し手の主観的態度の表明・表出である」　工藤(1995)

- (23)「よく寝るな」
- (24)「なぜ、俺を見るんだよ。何か文句あるのかい」
- (25)「いやなものをもらうわね。わたし、あいつ、大嫌い」
- (26)「パパ、古いことを言うねえ」

- 工藤（1995）はこのような例をあげたものの、本発表で取り上げるような疑問詞に特化した考察ではない。

次のような「疑問詞＋スル」がよくも用いられる。

- 〔相手が他人を馬鹿にしたとき〕
- (27) なんで人を馬鹿にするの！

- 〔相手が自分に対し、無礼な行動をとったときに〕
- (28) なにするの！

- 上の例文は疑問の形であるが、真性疑問ではない。

- 相手への不満や非難めいたことを表している。

以下の三つの構文の語用論的機能や動機付けを明らかにしていく。

- ①「なんで＋動詞（現在形）の」
- ②「なにするの」
- ③「なに言うの」
- 【注】文末の形として、「動詞＋（の）か」、「動詞＋んだ」などの形もある。これらの間の相違には触れない。

3.2「なんで＋動詞（ル形）の」

- (29) なんで人を馬鹿にするの！
- 述語動詞がル形であるにもかかわらず、未然のできごとについて疑問を表すのではなく、目の前で発生済みの出来事に対して、「なんで」という原因を尋ねる疑問詞を用いて、相手へ疑問というよりも、話し手自らの（不満な）態度をぶつけたものである。
- 「人を馬鹿にしちゃいけないよ」と同じ。特に相手に答えを求めているわけではない。
- すでに発生済みの出来事であるにも関わらず、ル形の使用によって事件発生の客観的な原因は背景化し、発話の目的は聞き手による行為の動機付けを問い詰めることになる。

- 単に事件の客観的な原因だけを尋ねるのなら、過去形の「タ」を用いればよい。この場合、時間詞と共起することも可能。
- （30）昨日なんで彼を馬鹿にしたの？
- ル形は過去の時間詞と共起しないが、未来の時間詞と共起する。
- （31）？昨日なんで彼を馬鹿にするの？
- （32）明日なんで行くの？　　（真性疑問文、原因、理由を聞く）

実例

- (33) それがミツルの望んだやり方だったとしても，あまりにも不幸だ。あまりにも残酷な結果じゃないか。「ごめんよ」僕には今、それしか言えない。赦しを請うためではなく、ミツルと共に歩まなかったことを、たとえラウ導師の教えに背いたとしても、ミツルと一緒に旅をしなかったことを、それは大いなる過ちだったと、自分自身に認めさせるために。「なんでおまえが謝るんだよ」ミツルは笑おうとしていた。（宮部　みゆき（著）『ブレイブ・ストーリー』）

- (34) ガーディアンは識別信号を求めている様子で、しばらくじっと二機の駆動鎧を見続けている。「驚いた。半機械の魔獣だ。データの中にもない」アン・フィスがグローブに無線で呼び掛けて、グローブはより注意深く見る。魔獣は箱船が遺伝子操作で生み出した生物兵器である。グローブは知る由も無いが、これは科学時代に北米大陸に生息していたピューマをベースに改造した魔獣で、身体の一部をナノマシンの集合体で強化したものだった。「なんで驚くの？箱船なら機械人形でも魔獣でもなんでもアリじゃないの？」

発生した出来事であるにも関わらず、「なんで」は客観的な原因を尋ねているのではない。

- （35）は相手に謝った原因を聞くのではなく、むしろ、相手が謝る必要がない、もしくは謝ってはいけないということを主張
- （36）は相手に驚いた原因を尋ねるのではなく、むしろ、驚く必要がないということを相手に伝える文である。
- 以下の(37)では動作が終了したかどうか（継続中の可能性）ははっきりしないが、すでに出来事は発生済みであることがはっきりしている。

- (37) ミツルは笑おうとしていた。鼻先でワタルをあしらうような、あの強気の笑みを浮かべようとしていた。「おまえは勝ったんだ。もっと喜べよ。なんで泣くんだよ。最後の、最後まで、おまえって…ホントにお人好しだな。」

- (38) もル形を用いて、泣くべきではないと相手に自らの態度を表明している。

- 動作が完了していようが、持続していようが、いずれも「なんで＋動詞（ル形）の」という疑問形を用いて、形式上は原因を尋ねているが、実質的には行為の動機づけを問い詰めることによって、自らの不満や非難の気持ちを表明することが可能である。
- 已然の事態に対して「ル」を用いるという日本語の時制に違反する述べ方はこのような心的態度表明のために取り得る有効な手立てであると考えられる。

3.3文末への「よ」の付加

- 「なんで＋動詞（ル形）の」の語用論的な意味が疑問というよりも話し手の気持ちを言明することにあるのは、この構文の文末に「よ」を付けられることからも分かる。

- 「よ」は聞き手と話し手の間の認識のギャップを埋めるためのものである（陳常好1987）
- 「よ」は「話し手の一方的な言明」(滝浦2007）

- 真性疑問文は通常「よ」と共起しにくい。

「よ」がつくと、相手のことをやや不満に思ったり、非難したりする話し手の気持ちの伝達に役立つ。

たとえ已然の形に用いられるにしても「よ」の有無により、意味の違いが生じる。

- (39) a. なんで謝ったの？　（単純な疑問）
- b. なんで謝ったのよ？　（言外に謝っちゃだめだという意味）

- (40) a. なんで泣いたの？
- b. なんで泣いたのよ？　（言外に泣いちゃだめだという意味

- (41) a. なんで驚いたの？
- b. なんで驚いたのよ？　（言外に驚いちゃだめだよという意味）

- （好きなケーキを食べられて相手を怒った場合）
- なんで食べたの？　（単に理由を尋ねる）
- なんで食べたのよ！（言外に食べちゃいけないという意味）
- なんで食べるのよ！（モダリティの用法、ル形でもOK）

3.4「なにするの」

- 疑問詞「なに」と動詞「する」の非過去形が共起した文によっても目の前で起きた事態に対して話し手の抗議や行為阻止の気持ちを表明することが可能である。

- (42) 僕は由美子のヨットパーカーの裾をめくった。「何するの？」「いいじゃない」「島谷さんが起きちゃうよ」「あれじゃ、火事になっても起きない。」

  (藤田 宜永(著) 『愛さずにはいられない』)

- 疑問形ではあるが、客観的に相手に何をするかを尋ねているのでもなければ、相手がなにをしたかについて回答を求めるものでもない。相手が「いいじゃない」という回答からも単純に質問に答えようとするものではなく、弁解しているにすぎないことが分かる。

3.5文末への「よ」の付加

次の「なにするのよ」はいずれも相手のしたことに対し、話し手の強い不満や抗議の気持ちを表明する。「よ」の付加はその気持ちの強化に役立つ。

- (43)うしろから羽交締めにする。そのままもつれて風野の肩が戸口の手前の壁に当った。「なにするのよ」「いいから、ちょっとこい」逆らう衿子を、風野はリビング・ルームへ引っ張ってくる。（渡辺 淳一(著) 『愛のごとく』）

- (44)すべてを把握したのだろう。いきなり、平手が明日香の頬に飛んだ。「ひぃっ！な…なにするのよぉ！」「ちゃんと、オレの質問に答えろー」明日香は頬を押さえてキッと睨み返したが、瑛児はゾッとするほど冷ややかな目で見おろして満足のゆく回答を迫る。（葉月 玲美(著) 『少女羞じらい肉人形』）

- (45)伯爵はいきなり、そばにいた女のえりがみをつかんで、ひきずりたおした。「なにするのよ！」女たちは、目を三角にして、キーキーおこっていたが、まもなく、あきらめたとみえて、気味のわるい声でケタケタ笑いだした。

（ブラム・ストーカー(著)/ 瀬川 昌男(訳) 『吸血鬼ドラキュラ』）

3.6文末への感嘆符の付加

感嘆符の使用も不満や抗議を表すというこの構文の機能を強化するのに有用である。

- (46)風呂に入ったとたん、麻衣と琴乃に押さえつけられて、縛られてしまったのである。「なにするの！？」叫んだところに猿轡をかけられたので、二人がなぜそんな暴挙に出たのか、尋ねることもできなかったのだ。　（海堂 剛(著)　『卒業レイプ』）

- (47)…もうすでに、顔と身体が滅茶苦茶です。　「やめて！触らないで！なにするの！」…もうそんなチャンスがなくなってまいりました。ねえ、歳は取りたくないです。（綾小路 きみまろ(著)『有効期限の過ぎた亭主・賞味期限の切れた女房』）

- (48)男の力に、初めて恐怖を感じた。必死で動いても、とても敵ではないのだ。「何するの！いやよ、私！」私は梶川の腕から逃れようと必死だった。

（赤川 次郎(著)『早春物語』）

以下は普通の疑問文であり、未然の場合はル形、過去の場合は「タ」形が用いられる

- (49)教室に入ってくるなり、「今日は何するの？この間やったボールやろうよ。ね、やるんでしょ？ぼくボールを上手に捕れるよう。」

  （岩崎 光弘、千葉 和恵（共著）『こどもがグングン伸びる「音楽あそび」』）

- (50)「ハッキリ言いなさい」「さあ…」「そのとき、何をした？」「何もしねえ。ただ…話をしただけだよ」（斎藤 栄（著）『謎の幽霊探偵』）

- (49)は「ル」を用いた未然の出来事に対する質問である。
- (50)は「タ」を用いた過去の出来事に対する質問である。

3.7 「なに言うの」

相手の言ったことに対し、「なにをいうの」という形で、疑問を表すものでもなければ、相手に返答を求めるものでもない。それを否定し、話し手の心的態度（反発などの気持ち）を表明するものである。

- (51)おれたちの餌にもきたから、おれたちのものでもある」「なにを！横取りしておいてなにをいうか」「おお、そうかよ。ならば返してやらあ！」

  （藤原 英司(著)『ハクチョウ物語』）

- (52)「マユミ、あんた、わるい子になったな。うち悲しいわ」「なに言うねん、なんにも知らんくせに。なんでうちだけがこんなめに合わなならんの。」

  （吉永 達彦(著)『古川』）

- (53)「春ちゃん、小百合さんに全部話そう」「なっなに言うんですか！」「いい？あの男は、小百合さんの他に女をつくって、こんなところに連れて来てるんだよ。（田村 章(著)『僕らに愛を！』）

- (54) 疲れているし、とてもできない。そのくらいならマルタに歩いてもらえばいい」「何を言うの。ドブ泥みたいな道を、マルタに歩かせる気？私には、そんな神経、理解できないわ」（斎藤 栄(著)『天城高原殺人迷路』）

相手の言ったことに対して疑問を呈し、答えを要求するのであれば、過去形の「タ」を用いなければならない。

- (55)今朝になったら、もう自分の言ったことを忘れてるんじゃないかな」「フォレストがなにを言ったんですか？いいから話してください」

（ジョン・グリシャム(著) / 天馬 龍行(訳)　『呼び出し』）

- (56)「それで？」グレンダの声にはいいしれぬ棘がある。「それでって？」「彼になにを言ったの？」ラリーは勝者気どりのうぬぼれをみなぎらせて、妻のほうを向いた。　（ベザニー・キャンベル(著) /矢部 真理(訳)　『愛をつないで』）

「ル」と「タ」におけるこのような機能上の違いは以下の例文によっても確かめることができる。

- (57) a. 何をおっしゃいますか。
- b. 何をおっしゃいましたか？
- aは形式上は疑問であるが、語用論的な意味としては相手の言ったことに対し否定することが可能。
- bは単なる疑問。この違いについて以下の例文で証明できる。
- （ほめられて謙遜していう）
- (58) a. 何をおっしゃいますか。そんなことはありませんよ。
- ？b. 何をおっしゃいましたか？そんなことはありませんよ。

「なにするの」、「なに言うの」の使用に動詞制限がある。

- 相手がなにかを食べて、それについて文句をいうとき
- (59) ？a. なに食べるの(よ)？　CF　(なに食べてるの(よ)？)
- 相手に殴られたとき
- ？b. なに殴るの(よ)？　(？なに殴っているの(よ)？　)
- 相手に怒られたとき
- ？c. なに怒るの(よ)？　(なに怒っているの(よ)？)

- 自分のものを食べられたり、あるいは殴られたり、怒られたりしたとき、（59）を用いて、それに対する抗議やその行為の継続中止を求めることは不可能である。

- なぜそうなのか？

4.「なにするの」、「なに言うの」の使用条件

- 現場で起きた出来事に対して抗議や反感を表明する場合にのみ使用可能である。非現場性の出来事には用いられず、時間詞とも共起できない。
- (60) ＊a. 昨日なにするの（よ）？/　昨日なにしたの（よ）？
- ＊b. 昨日なに言うんですか。/昨日なに言ったの（よ）？
- c なにする/言うの（よ）？　（発話現場で発生した出来事だが、モダリティ）
- d いま何をした/言った？（発話現場で発生した出来事だが、真性疑問）

引用の「と」を使用すると成立しない

- （61）a. 今なんと言った？
- *b. 今なんと言う？
- 「タ」を用いたaは相手の言ったことがはっきり聞き取れなくて、確認のために再度同じ内容を言ってもらおうという状況
- 通常の疑問文であり、反感や抗議あるいは相手の行為を阻止しようとする語用的意味はない。

引用用法の実例

- (62) ビリーは自分がほとんど叫んでいるのを知った。「聞こえないぞ。いまなんといったんだ？」　（レニー・エアース(著)/ 田中　靖(訳)　『夜の闇を待ちながら』）

- (63) あなたは誰からオウェン・ヨークシャーの名前を聞いたのですか？」「今、なんと言った？」彼がはぐらかした。（ディック・フランシス(著)/ 菊池　光(訳)　『敵手』）

「ル」を使った場合、未然のことについての質問、もしくは（人物や事物の）名前を尋ねる質問になる。

- (64)叔父が今日の再軍備への滔々たる潮流を見たら、なんと言うか。骨でつくった骨笛という楽器があると聞いた。　（森村　誠一(著)　『マッカーサーの子供』）

- (65)「そうだ。おかみさん！娘の名はなんと言う？」「上の娘子は字はわからんが“ミレイ”、下は“レイカ”と言うよ。」　（大草　貫治(著)　『生き残りを賭けて』）

- 「なんと言うか/の」は話し手の主観的な気持ちを表明するのには用いられず、疑問用法しかない。
- そもそも「なんと」は疑問詞「なん」と引用標識「と」からなり、発話内容の引用をしているに過ぎないため、話し手の気持ちの表出に向いていない。

「なんで＋動詞（ル形）の」、「なに言うの」及び「なにするの」が話し手の主観的態度を表す用法を有するのは、以下の理由による。

- １．現場で発生済みの出来事を述べる際に用いられるということと関係する
- ２．疑問詞（「なんで」、「なに」）及びル形と深く関係している。
- ３．動詞の制限がある。

- 現場性のある文脈において使用される疑問詞とル形という二つの要素が真性疑問文から疑似疑問文への変化を促し、それによってこの構文が主観的態度を表す用法を獲得したものであると考えられる。

まず時制について

- 時制から見れば、「ル」形は一般的に未然の行為または習慣や規則、真理など、出来事の時間背景を不問にする場合に用いられる。

- すでに実現した出来事を述べる際には已然の「タ」を用いる必要があるが、にもかかわらず、「ル」が用いられるのはあえてその出来事の時制またはアスペクトを不問にし、已然の出来事として扱わずに、その出来事の背後にある動機づけ、行為の目的を前面に押し出し、話し手の心的態度を表明するためであると考えられる。

次に、動詞の制限について
では、なぜこのような時制やアスペクトを無視した行為が「する」、「言う」といった動詞に限られるのか

- この二つの動詞が上位概念に属し、人間の最も基本的な行為を表すことと深く関係していると考えられる。
- 人間のもっとも基本的な営為は「言語」、「行為」及び「思考」である。動作は「する」という行為、言語は「言う」という行為、思考は「考える」といった上位概念を表す行為を通じて実現されるものである。

- 実際の文脈において下位概念動詞によって表現する必要がない場合は上位概念動詞で十分である。
- 「する」は代動詞と呼ばれることもあり、このネーミングは「する」が下位概念動詞の代替として用いられることを反映している

- 動作行為の背後にある動機付け自身が問題となる場合は下位概念動詞よりも上位概念動詞を用いてその動機付けや目的を問い詰めることがより効果的であろう。
- 「なにするの」は動作行為自身の意義への疑問を呈することによって行為の実現した時間や完了したかどうかを不問にし、行為そのものの意義を否定し、話し手の心的態度（不満や反感、抗議、行為阻止など）を表明する。
- 「なに言うの」は疑問の形を呈しながら、実際には話し手の心的態度（相手の言ったことへの不満や反感などの気持ち）を表す。

下位概念動詞には心的態度の用法はない。

- 実際に下位概念動詞を用いると、これからの動作についてその対象が何であるかを確認することになる。

- なに食べるの？
- なに書くの？

- 相手に何を食べるかを尋ねているだけである。単純に動作の対象を尋ねる場合、動作行為の意義への質疑や否定にはならない。

最後になぜ疑問詞なのか？

5. 疑問形式の働き

- そもそも疑問は反問（反語）になりやすい。
- 疑問とは分からないことを誰かに聞いて、回答を得ようとすることである。
- 逆に言えば、すでに分かっていることについて質問する必要がない。
- 相手のやったことについてお互いに分かっていながら、わざと相手に尋ねる（明知故问）のは別の意図（别有用心）がある。そこに反語が生じやすい。
- 結果として話し手の何らかの心的態度を表すことにつながる。

- “疑问句在实际运用中有两种不同的作用，一种是实用，即真性问，传达疑惑信息并进行询问，这是疑问句的常规用法；另一种是虚用，即假性问，形式上仍然是疑问句，但实际上发问者心目中已有明确的看法，只不过利用疑问句的形式，在曲折地表达自己看法的同时显示某种特殊的感情色彩，实现某种特定的语用价值。

邵敬敏(1996:163)

いま議論している３構文は形式上疑問形であるが、実質的には疑問を表さないものである。　いわゆる疑似疑問である。

真性疑問もあり得る

- 実際に真性疑問であるのかそれとも疑似疑問であるのかは往々にして文脈によって決まる。
- 「なんで＋動詞（ル形）の」、「なにするの」、「なに言うの」構文は、ここで議論してきた文脈（現場で発生済みの出来事について、分かっていながら、「ル」形）を用いて質問する）においては疑似疑問の機能しかなく、真性疑問を表さない。
- これらの構文はすでにモダリティを表す用法を獲得したのではないだろうか。

若い人がよく用いる「なにこれ」も話し手の心的態度を示すものと考えられるのではないか。

- (66) Ｙ字塔の二股になった先端から、霧のようなガスが噴き出した。　「なにこれ」！？」　ともこが悲鳴をあげる。　「臭～い！！」　喩えようのない臭いだった。　（吉岡平（著）『アプサラスリターンズ』）

- (67) お風呂から今出てきたんだが全身に赤いブツブツがかゆい　なにこれ

(Yahoo!ブログ)

単に疑問を表すものではなく、目の前の事物を認識していながら、「なに」の形で目の前の存在物に対する話し手の信じられない驚きの気持ちを示しているのではないだろうか。

疑問詞だけでもモダリティ的である例

- (68) 「セシールじゃないよお。セシールなわけないでしょ」「だってほかにはないもん。なによお、いじめてるでしょ」「きみが教えてくれって言ったからだよ」　（高橋 直子(著) 『芦毛のアン』）

- (69)「先でいいといいながら、自分の欲しいものとなると明日でも私を呼び出したいのだ。なによ。本当は何も知らないくせに」口に出して言ってみた。それは誰でも知っていることだ。　（林 真理子(著) 『最終便に間に合えば』）

- この２例も話し手が目の前の状況をはっきりと認識していながら、「なによ」を用いて、相手への反発や非難といった話し手の心的態度を表明している。

6. 疑問詞と下位概念動詞との共起関係

- (70) ？a. なに怒るの？　b. なに怒っているの？
- (71) ？a. なに悩むの？　b. なに悩んでいるの？
- (72) ？a. なにボケるの？　b. なにボケているの？
- (73) ？a. なに喧嘩するの？　b. なに喧嘩しているの？
- (74) ？a. なに騒ぐの？　b. なに騒いでいるの？

下位概念動詞の場合「ル」形よりも「ている」が

- 「テイル」は疑問詞と共起すると動作の持続を問題にすることになり、動作や状態の持続を問う発話となる。このような持続性表現の使用は日本語の時制には違反しない。この場合真性疑問もあり得る。

- 文脈によっては話し手の心的態度を表す「なにするの」は「なにしているの」という持続形に置き換えても成立する場合があり、両者には意味や機能の違いがあるのか、今後の課題である。

日本語についてのまとめ

- 心的態度を表す用法にかかわる要素は以下の通りである。

- 1現場性
- 2「ル」形
- 3疑問詞
- 4上位概念動詞

7. 中国語の疑問形式

- “动词+什么”の形で不満や非難といった話し手の心的態度を表すことが可能である。
- 動作行為の動機付けを追求する際には前に“要”を加えることもできる。
- (75)你(要)干什么?
  なにする/しようとしているの？

- 疑似疑問の場合は已然の出来事であっても、已然マーカーを用いる必要はないが、真性疑問の場合は已然マーカーを使わなければならない。

  - (76) a你昨天干什么了?

    昨日なにをしたの？

  - ?b 你昨天干什么？

    ?昨日なにをするの？

動詞制限なし、時制がないためか

- (77)（你）说什么呀?　　なにを言った/言うの？
- (78)（你）想什么呀?　　なにを考えている/考えるの？
- (79) 你们吵什么?　　なにを騒いでいるの？
- (80) 你们闹什么?　　なにを騒いでいるの？
- 真性疑問と疑似疑問の両方、文脈次第。

“动词+什么+动词”は疑似疑問しかない
強烈な抗議や相手の行動阻止を要求する心的態度を表明することができる。

- (81) a. 看什么看?　　見るな！（何見ているんだよ？）
- b. 吃什么吃?　　食べるな！（何食べているんだよ？）
- 両構文の違いは以下の成立可否にも反映されている。
- (82) a. 你在看什么?　　なにを見ているの？
- *b. 你在看什么看?

中国語のまとめ

- 本発表では、已然事態を述べる際の日本語と中国語の差異について考察し、その結果、以下のことが分かった。
- 中国語には過去を表す標識はないが、完了を示す“了$_1$”や変化済みを示す“了$_2$”がある。
- 中国語では、過去の事態を述べる際、述語が“是”または形容詞の場合は已然マーカーを必要としない。
- 述語が動詞の場合は、已然マーカーが必要になることが多いものの、叙述方法や文の表現機能によって已然マーカーの必要性は異なり、説明や描写などを目的とする発話においては、已然マーカーを用いてはならない。
- V＋什么　　V＋什么＋V　の形で、疑似疑問として、相手への不満や反感、禁止などを表すことが可能である。

日本語のまとめ

- 過去時制がある日本語では、過去の事態を客観的に述べるときには過去のマーカー「タ」を用いなければならない。
- 文の機能が変わっても通常は「タ」を残す必要がある。
- 日本語においてもすでに発生した出来事に対し、系統的に「疑問詞＋ル」形を用いて話し手の心的態度を表明することがある。
- 「なんで＋動詞（ル形）＋の」
- 「なにするの」
- 「なに言うの」

語用論的な意味として疑問文からモダリティへの仕組み

- 形式として
- 疑問詞と「ル」形⇒疑似疑問文
- 行為の発生したこと自体への質問⇒行為の動機に対する疑問
- 疑問⇒分かっていながら聞く“明知故问”⇒態度の表明（否定、反発）
- 話し手の抗議や反感または相手の行為への阻止という気持ちの表明として機能する。

注記：出典のある日本語例文は日本国立国語研究所の日本語書き言葉均衡コーパス『少納言』によるものである

参考文献

大河内康憲（1997）『中国語の諸相』白帝社

尾上圭介（2001）『文法と意味Ⅰ』くろしお出版

加藤重広（2006）『日本語文法入門ハンドブック』研究社

神尾昭雄（1990）『情報のなわ張り理論ー言語の機能的分析』大修館書店

金水敏・田窪行則（1998）「談話管理に基づく『よ』『ね』『よね』の研究」堂下他（編）『音声による人間と機械の対話』オーム社pp. 257-271

工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテクストー現代日本語の時間の表現ー』 ひつじ書房

工藤真由美（2013）「テンポラルな意味とモーダルな意味」《日語学習与研究》, 3巻, 166 号, pp. 1-8

鈴木慶夏（2001）「対挙形式の意味とシンタクス」『中国語学』248号, pp. 182-198

滝浦真人（2007）「 終助詞「か/よ/ね」の意味機能とコミュニケーション機能ーモダリティーとポライトネスの観点から」麗澤大学言語研究センター第31回研究セミナー発表 （2007. 2. 28）

陳常好（1987） 「終助詞ー話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための接辞」『日本語学』06-10 明治書院

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法④』くろしお出版
日本語記述文法研究会編(2007)『現代日本語文法③』くろしお出版
ポリー・ザトラウスキー(1993)『日本語の談話の構造分析：勧誘のストラテジーの構造』
くろしお出版出版
村木新次郎(1980)「日本語の機能動詞表現をめぐって」『シリーズ国立国語研究所報告65,
研究報告集第２巻』
楊凱栄(2018)『中国語学・日中対照論考』白帝社
山岡政紀(2000)『日本語の述語と文機能』くろしお出版
刘月华、潘文娱、故韡（2003）《实用现代汉语研究》增订本 商务印书馆
邵敬敏（1996）《现代汉语疑问句研究》华东师范大学出版社
张斌主编（2010）《现代汉语描写语法》商务印书馆
朱德熙（1982）《语法讲义》商务印书馆
ジェフリー・N.リーチ著，池上嘉彦・河上誓作訳（1987）『語用論』，紀伊国屋書店

- ご清聴、ありがとうございました。